

こども計画及び第3期子ども・子育て支援 事業計画ニーズ調査の概要について

児対審資料1

①就学前児童の保護者調査

対象	長岡京市に居住する就学前児童の保護者 1,600人程度（無作為抽出）
時期	令和6年1月頃
調査の ねらい	・ 保育所をはじめとする子ども・子育て支援のサービス量を推計する。 ・ 妊娠期からの切れ目のない支援等の充実のためニーズを把握する。
調査方法	アンケート（郵送→返送またはWEB回答）

第2期計画ニーズ調査に以下の設問を追加。（前回設問の一部は簡略化）

- 経済の貧困状況に関する設問
世帯年収と衣食住に係る費用について質問する。
- 産後の支援に関する設問
切れ目のない子育て支援のため、産後の不安や負担等について把握する。
- ヤングケアラーに関する設問
「ヤングケアラー」の認知度を図り、周知・啓発につながるような質問とする。

②小学生の保護者調査

対象	長岡京市に居住する小学生(1～6年生)の保護者 800人程度 (無作為抽出)
時期	令和6年1月頃
調査のねらい	<ul style="list-style-type: none">・就学後の子ども・子育て支援のサービス量を推計する。・多様で複雑な支援の充実に向けて、ニーズを把握する。
調査方法	アンケート (郵送→返送またはWEB回答)

第2期計画ニーズ調査に以下の設問を追加。(前回設問の一部は簡略化)

●経済の貧困状況に関する設問

世帯年収と衣食住に係る費用について質問する。

●ヤングケアラーに関する設問

「ヤングケアラー」の認知度を図り、周知・啓発につながるような質問とする。

③小学生高学年・中学生本人調査

対象	長岡京市に居住する小学5～6年生及び中学生 最大で4,000人程度に案内 →回答は任意
時期	令和6年1月頃
調査のねらい	・多様で複雑な支援の充実に向けてニーズを把握する。 ・子どもの権利に関する認知度を図り、周知・啓発に努める。
調査方法	アンケート（WEB方式）

以下のような設問について質問。（抜粋）

●放課後の過ごし方についての設問

放課後の時間の使い方等を把握、楽しい／楽しくない理由、ネット利用状況など。

●悩み事や考え方についての設問

児童、生徒の悩みごと、不安な状況、相談できる人などについて把握する。

●子どもの権利についての設問

こども基本法等における子どもの権利の認知度を権利ごとに把握する。

④ 高校生等の本人調査

対象	長岡京市内の高等学校に在学の高校生 最大で2,000人程度に案内 →回答は任意
時期	令和6年1月頃
調査の ねらい	・若者のひきこもりをはじめとする多様で複雑な支援の充実に向けて、 ニーズを把握する。
調査方法	アンケート（WEB方式）

以下のような設問について質問。（抜粋）

●普段の生活や人間関係についての設問

不登校の有無や時期、ひきこもりの可能性等について把握する。
人間関係、特に親友・家族・相談相手について把握する。

●子どもの権利についての設問

こども基本法等における子どもの権利の認知度を権利ごとに把握する。

●市の施策等についての設問

将来に対する希望、不安を把握する。

※高校生以外に広げる可能性もあり。

⑤ワークショップの開催

対象	長岡京市内の高等学校の生徒有志（市民・市外）
時期	令和5年12月下旬
調査のねらい	<ul style="list-style-type: none">・こども本人の意見を収集・整理し、こどもの意見を次期計画へ反映。・こどもたち自身に社会の現状や課題について考える機会を提供。
方法	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップの開催（対面）・各学校の生徒が一堂に集まり、意見交換

●ワークショップの開催

市内の高校に協力を依頼し、15人前後で実施。（各校約5人ずつ）
テーマにグループワーク形式で討議する予定。1時間30分程度。

●テーマ（案）

高校生のこれまでの経験と、こどもたちにとってどんなまちがよいか、など前向きな意見がもらえるテーマを設定

→ワークショップやヒアリングを通じて、得られたこどもの自由な意見のキーワードなどを次期計画の基本理念や基本目標等に盛り込むことを想定。

⑥ヒアリングの実施

対象	長岡京市内の支援学校高校生の生徒有志など
時期	令和6年2月頃
調査のねらい	<ul style="list-style-type: none">・こども本人の意見を収集・整理し、こどもの意見を次期計画へ反映。・こどもたち自身に社会の現状や課題について考える機会を提供。
方法	<ul style="list-style-type: none">・ヒアリングの実施（対面方式）

●ヒアリングの実施

⑤類似の内容等について、支援学校高校生の生徒有志へヒアリングを実施。

→ワークショップやヒアリングを通じて、得られたこどもの自由な意見のキーワードなどを次期計画の基本理念や基本目標等に盛り込むことを検討。